

令和 6 年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	10	学 校 名	田方農業高校	記 載 者	植平 充彦
------	----	-------	--------	-------	-------

評価	基 準	評価	基 準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	農業高校で学ぶ知識と技術をしっかりと体験し身に着ける。 （基礎学力の定着。実験・実習を大切にする。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学び」の一体的な充実）	○常に授業を大切にし、準備をして臨むことができた生徒 90%以上 ○基礎学力が定着した生徒・保護者 80%以上 ○毎日の学習活動で I C T を活用した生徒 80%以上	B	B	・日頃、十分、指導されていると思うが、あきらめず御指導をお願いしたい。生徒にとって学力は一番大事なことであるから。 ・基礎学力を確実に定着させるための手段、方法は、多数あると思う。放課後の一層の活用を期待する。 ・学年が上がるにつれて学力差は大きくなっていく。個別指導の必要な生徒には、十分指導できる体制でありたい。 ・成果目標「基礎学力が定着した生徒・保護者 80%以上」、生徒（86%）、保護者（51%）の達成率の乖離について、生徒は試験前に勉強をすれば学力が定着すると考え、保護者は毎日の学習習慣が学力の定着と考えているようだ。学力を示す指標が欲しい。 ・ICT 活用が進んでいることが分かった。生徒の事前の調べ学習等、個別最適な学びにつながっている。 ・国語の読み書き等、学びの基礎が十分でない生徒の指導の困難さを感じられる。 ・数学においても、基礎的な内容の習得において、先生方の変えが感じられた。 ・家庭学習の習慣、基礎的な知識の定着等、義務段階での取り組みを考えさせられる。

様式第 5 号

イ	自ら考えて、自他のため に行動する力を身に付 ける。	○実験実習等で挨拶や感謝の言える生徒 90%以上 ○自発的・積極的に授業や家庭学習に取り組む生徒 80%以上 ○自分の意見や考えを持ち、他者の意見を認める生徒 90%以上	A	A	・義務段階においても、粘り強さは課題となっている。 ・田農生は挨拶がよくできる。 ・家庭学習の習慣が必要だろうか。学校の授業、放課後の活動、授業レポート等をしっかりとこなすことで社会で必要とされる力が身につくのではないかな。
		○朝読書を有効に活用できたとする生徒 90%以上 ○整理整頓を意識し清掃が行える生徒 90%以上	B	B	・清掃活動にしっかり取り組んでいるのは、先生方の指導の成果である。
ウ	将来の生き方・暮らし方・働き方を考える。(キャリア教育と進路指導の充実)	○進路意識が高まった生徒 90%以上 ○進路指導が十分行われていると感じる生徒 90%以上、保護者 90%以上	B	B	・生き方、進路指導については生徒よりも保護者の理解・協力を求めることが課題となっていることが分かった。 ・論文指導等、個別の対応がなされ、ありがたい。
エ	学校農業クラブ・生徒会・部活動によって自治を学ぶ。	○学校農業クラブ活動に積極的に関わった生徒 70%以上 ○学校行事等を積極的に行った生徒 90%以上。 ○子供が部活動に満足していると感じる保護者 80%以上	B	B	・優秀な成績をあげている生徒については、先生方の指導の賜物である。
オ	豆田方分校等との「共生・共育」によって社会の多様性について学ぶ。 (インクルーシブな学校運営モデル事業)	○共生・共育の交流活動 5 回以上 ○講師招請を含めた地域連携活動 1 回以上	A	A	・講師の活用と伊豆田方分校との交流活動の成果が出ている。今後も継続した取り組みに期待する。
カ	全ての生徒・教職員が安全で安心して学ぶことのできる場をみんなでつくる。	○特別支援教育や教育相談、通級指導の情報共有 10 回以上	B	B	・成果目標「地域防災訓練に参加した生徒 50%以上」、当日、部活動等の学校行事など、やむを得ず参加できなかった生徒もいるの

様式第 5 号

		○地域防災訓練に参加した生徒 50%以上	D	D	では。 ・地域防災訓練を、各地区の防災担当者だけで行い、高校生の参加を要請しない地域も多い。 ・県の講座で学校を利用するのも一つの方法では？ ・いつ、何が起こるか分からない不安定な時代である。災害ボランティア、コーディネーター等にはより多く参加してほしい。 ・災害時には高校生に活躍してほしい。 ・人権、命を守る等の心は一層高めてほしい。 ・非常事態が起こった際は、中・高校生の若い力は大きな力となる。そのようなメッセージは伝えていきたい。 ・広域な学区で地域の活動を把握するのは難しいと感じる。保護者の意識にも左右されると感じる。町内でもゼロ組と言われ、地域活動に参加していない家庭が増加している。
キ	持続可能な社会をつくるために、保護者や地域社会と連携する。	○時代に即した P T A 活動の実施	C	C	・ P T A をなくしている学校もあると聞く。 P T A 活動を見直すことも必要か。
		○ J A や 地 元 農家・企業との連携の促進	A	A	・ 成果目標「JA や地元農家・企業との連携の促進」、農林事務所では、生産者だけでなく、地元食材の魅力を活かし、積極的に使用する人材や加工業者との連携にも取り組んでいるので、今後も貴校の協力をお願いしたい。
		○熟議が学校運営に反映したと感じる委員 90%以上	B	B	・学校に対して多くの意見を言えるのでありがたい。全ての意見を具体的に学校運営に反映させるのは容易ではない。
ク	新しい時代の価値観に沿った働き方、専門職性を修得する。	○専門職性向上のための研修実施。 ○ワークライフバランスと生産性向上 ○教職員の不祥事、体罰、交通事故 0 ゼロ件 ○監査、検査の注意 0 件	B	B	・先生方の研修はとても大切であると思う。更に研鑽してほしい。 ・生徒が多様化し、それを認めながらの日々の教育活動は多忙であると感じる。協力できることがあれば協力したい。